

年次報告 2017

公益財団法人 国際開発救援財団



心をあわせ、未来をひらく

ご挨拶



理事長 飯島 延浩

法人賛助会員、個人賛助会員をはじめ、本財団をご支援くださる皆様に、日頃よりのご支援、ご協力に対し厚く御礼申し上げます。さて、ここに2017年度の年次報告をお届けするにあたり一言ご挨拶申し上げます。

本財団は、当年度も、着実に事業を進めることができました。海外では、カンボジア、ベトナム、ネパールで地域に根差した活動に取り組み、カンボジアでは、同国で初めてとなる子どもの食生活指針を完成させ、この指針は国の正式な基準として定められました。ベトナムでは、中部山岳地域での地域活性化支援の活動を拡げ、また、ネパールでは、社会的に低い階層に置かれた人々への生活改善の活動を前進させました。FIDRが、現在取り組む各活動は、現地社会に受け入れられるとともに、着実な援助活動を行っていることを、現地政府からも、しっかり理解され、評価されて、更に拡大させることができいております。

また、国内では、発生から7年が経過した東日本大震災への復興支援に引き続き取り組み、当年度は、岩手県山田町の集会施設建設の、2018年度中の完成に向け、準備を進めました。

FIDRは今後も、法人賛助会員、個人賛助会員の皆様のご期待にお応えするとともに、日本人並びに日本企業の、子どもたちの救済を主眼とする開発途上国援助を、キリスト教の精神に導かれた事業活動として着実に推し進めて参ります。引き続き、皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

目次

- 2 ご挨拶
- 3 FIDR の 2017 年度
- 4 活動地とプロジェクト概要
- 6 [特集] カンボジア栄養教育普及プロジェクト
国際協力援助
- 8 カンボジア
- 10 ベトナム
- 12 ネパール
- 13 共催事業
- 14 緊急援助
- 16 みなさまとともに
- 20 広報啓発
- 21 会計報告
- 22 FIDR について

FIDRの2017年度

- [ネパール] 大地震復興支援で建設した
2小学校の完成式典 (26日、27日)



- FIDRカフェ (27日)



- 第16回「愛の泉」チャリティーコンサート開催 (21日)
- 「グローバルフェスタJAPAN2017」に
ブース出展参加 (30日～10月1日)



- FIDRカフェ (10日)
- ミヨシ油脂株式会社にてFIDR活動説明会 (14日)
- (カンボジア) 「学齢期の子どものための
食生活指針」完成発表セミナー開催 (20日)



- ベトナム少数民族deプティ・マルシェ (29日)

- FIDRカフェ (16日)

- 第27回定例理事会 (12日)
- 月島食品工業株式会社にて
FIDR活動報告会実施 (13日)
- 市川ロータリークラブにて
FIDR活動報告会実施 (15日)

4月

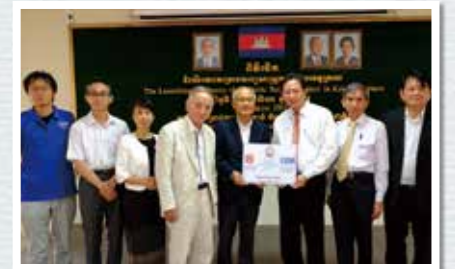
6月

- 第24回定例理事会 (1日)
- 第9回定時評議員会 (23日)
- FIDRカフェ (29日)

7月

8月

- (カンボジア) クラチェ州にて小児外科支援
プロジェクト開始セレモニー開催 (7日)



- ヤマザキ製パン従業員組合研修において
FIDR活動説明会実施 (4日～10月18日)
- FIDRカフェ (31日)

9月

10月

- 国際開発救援財団、ワールド・ビジョン・ジャパン
合同事業報告会 (12日)



11月

- FIDRグローバルカフェ (13日)

12月

- (ベトナム) 中部台風被災者への緊急援助



1月

3月

- 三菱商事株式会社バザー出店 (7日)
- ヤマザキ製パン従業員組合本社支部バザー出店 (15日)
- (ベトナム) 顕著な事業成果を生み出し、貧困削減に寄与した
団体として表彰 (21日)
- (ネパール) ネパール大地震の緊急復興支援に対し、ネパール
政府から感謝状授与 (27日)

活動地とプロジェクト概要

2017年度、FIDRは、日本とアジアの国々で、栄養、教育、産業育成、食糧、農業、保健医療、災害復興という多岐にわたる14のプロジェクトを実施し、多くの子どもたちの命と暮らしを支えました。

アフガニスタン

ネパール

ベトナム

カンボジア

日本

共催事業

アフガニスタンの子どもたちに質の高い教育を

アフガニスタンにおける教育支援

期 間 2017年4月～2018年3月
対象地 ガズニ州ジャグリー市ヌール学校（小中高一貫校）
受益者 同校在籍生徒約**1,000人**および教員



ベトナムの医療技術の向上と人材開発のために

ベトナム国際医療技術協力

期 間 2017年7月～2018年1月
対象地 ベトナム・ハノイ市、日本
受益者 ベトナム政府保健省職員および医療従事者 約**150人**



ネパール

住民の力で地域全体の生活を改善

ダーディン郡地域総合開発

総事業期 2011年9月～2018年3月
対象地 バグマティ県ダーディン郡内4地区
受益者 4地区の住民約**41,000人**（約7,500世帯）



カンボジア

カンボジアの地方で小児外科の医療体制をつくりあげる

カンボジア小児外科支援

総事業期 1996年10月～2022年3月（予定）
対象地 クラチェ州およびプノンベン市
受益者 国立小児病院とクラチェ州の病院・診療所の医療従事者等約**1,000人**
年間約**300人**のクラチェ州病院小児外科患者およびその保護者



山村に安全な学び舎を

ネパール学校環境改善

総事業期 2017年8月～2020年6月（予定）
対象地 ラメチャップ郡ゴクルガンガ地区
ダーディン郡ニラカンタ市
受益者 対象地の学校に通う子どもと教員および住民約**80,000人**



栄養のある給食で、子どもたちに健康を

カンボジア給食支援

総事業期 2014年4月～2019年3月（予定）
対象地 プノンベン市および国内各地
受益者 国立小児病院医療従事者約**350人**
年間約**10,000人**の国立小児病院の入院患者、その他国内の施設で給食を提供される子どもおよび職員



ベトナム

もっとも貧しい地域で、栄養不良の子どもを減らす

コントゥム省子どもの栄養改善

総事業期 2012年4月～2018年9月（予定）
対象地 コントゥム省内2郡
受益者 コントゥム省内2郡全社の住民約**92,000人**（約21,000世帯）



農業の生産性アップ&家族の健康促進

コンボンチュナン州農村開発

総事業期 2011年4月～2020年3月（予定）
対象地 コンボンチュナン州内2郡8地区56村
受益者 約**41,700人**（5,857世帯）



栄養教育の普及により、子どもたちに笑顔と健康を

カンボジア栄養教育普及

総事業期 2017年4月～2020年3月（予定）
対象地 カンボジア全国
受益者 教育省および保健省の職員
全国の公立校（小中高）の教員および生徒とその家族



山岳地域を自らの力で丸ごとプロデュース

ナムザン郡地域活性化支援

総事業期 2016年4月～2020年7月（予定）
対象地 クアンナム省ナムザン郡
受益者 ナムザン郡の住民約**22,700人**



山村の食糧不足を新農法で解決
中部山岳地域における食糧生産支援

総事業期 2016年4月～2019年3月（予定）
対象地 クアンナム省内6郡およびトゥアティエンフエ省内1郡
受益者 7郡の農民約**200,000人**



緊急援助

被災された人々の生活再建と地域復興のために

東日本大震災緊急・復興支援

総事業期 2011年3月～
対象地 岩手県山田町、大槌町を中心とする沿岸部各地
受益者 山田町、大槌町を中心とする東日本大震災の被災住民

ネパール大地震緊急・復興支援

総事業期 2015年4月～2017年3月
対象地 バグマティ県ダーディン郡内4地区
受益者 4地区の住民約**41,000人**（約7,500世帯）

ベトナム中部台風緊急支援

総事業期 2017年12月～2018年1月
対象地 ダナン市ホアバン地区
クアンナム省ナムチャーミー郡チャビン社、チャナム社およびチャバン社
受益者 対象地域の住民**9,446世帯**

FIDRの活動分野



栄養 教育 産業育成



食糧 農業 保健医療

カンボジア栄養教育普及プロジェクト カンボジア初、 学齢期の子どもたちのための 「食生活指針」が完成しました



▲ 7つのスローガン（囲み内）の内容、想像できますか？答えはページ下部をご覧ください。

カンボジア語で描かれている上の図、どんな内容が想像できますか？
左上の囲みは、「毎日、全ての食品群の食べ物をバランスよく食べましょう」です。
その他の左右の囲みに書かれていることはどうでしょう？
なんとなく、わかりますよね。
文字が読めない私たちにも想像できるわかりやすさこそが肝心です。
これは、カンボジア全国の子どもたちの食習慣を改善させるための教材。
大切なメッセージを、わかりやすく、親しみやすく示すために、
FIDR は関係者と議論を重ね、試作を子どもたちに見せて何度も修正し、
最終的にこのデザインになりました。



カンボジア版 学齢期の子どもたちのための食生活指針
左側上から／毎日、全ての種類の食べ物をバランス良く食べましょう／小魚や牛乳、乳製品など、カルシウムが豊富な食品を食べましょう／魚、肉、卵、豆類など、タンパク質が豊富な食品を毎日少なくとも2～3回食べましょう／多くの果物と野菜を規則正しく食べましょう
右側上から／ごはん、麺類、パンなどの穀物、デンプン類を適量食べましょう／塩、砂糖、油の多い食品は控えめに／体重、身長を定期的に計り、あなたの成長を確認しましょう

食生活指針とは？

これが、カンボジアで初めてできあがった、学齢児童の「食生活指針」です。
栄養問題は、世界各国に共通するテーマの一つ。食事は国や地域によってさまざまで、体格や健康上の問題も時代や社会経済状況によって変わってきます。したがって何をどのくらい食べるかという指針は、国ごとに調査を踏まえて設定しなければなりません。
日本では、食生活指針は「食事バランスガイド」として認知されています。日本の標準的な食事の望ましい組み合わせと1日あたりのおおよその量がイラストでわかりやすく示されています。デザインのモチーフは、日本人になじみのあるコマで、運動の重要性も表現する工夫がなされています。
カンボジアにはこうした指針が長らく存在していませんでした。

完成に至るまで

カンボジアは、東南アジアの中で子どもの栄養不良率が最も高い国の一つです。赤ちゃんや幼児に限っていえば、国際的な支援によって栄養対策はある程度できていものの、学齢期の子どもたちになると極めて手薄です。FIDRは保健省からの要請を受けて、2014年から学齢児童を対象とする食生活指針の策定に取り組みました。
まずは、カンボジアの子どもたちの栄養状態と食事の摂取状況を把握しなければなりません。全国各地の小中学校および高等学校でサンプリング調査を行い2,020人のデータを集めました。統計分析の結果、子どもたちの平均体重や身長は、他の東南アジア諸国の平均と比べ、明らかに低いことが改めて認められました。その要因を栄養との関連で精緻に解析したところ、エネルギーの摂取量が十分ではなく、タンパク質やカルシウムなども大きく不足している傾向が判明しました。
この調査結果をもとに、子どもの体重向上の目標値を定め、その達成のために推奨される各栄養素の摂取量を算定しました。それを実際の食事に活かすためのツールとしてまとめたのが食生活指針です。

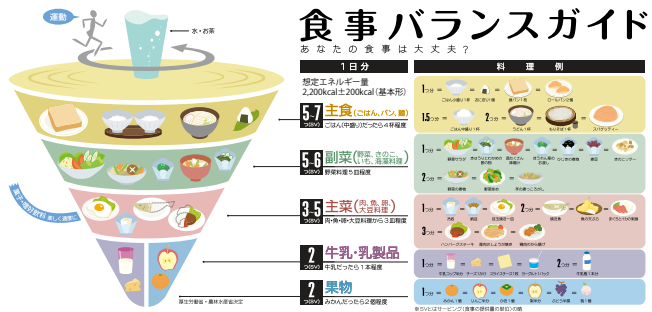
「栄養」の概念がまだ薄いカンボジアで、子どもたちに正しく理解し、親しんでもらうため、文字表現やイラストなどに何度も修正を重ね、実際に子どもたちにも見せて反応を確かめたうえで完成にこぎつけました。フードピラミッドの形は、カンボジアのシンボルであるアンコールワットの塔をモチーフにしたのもこうした過程の結果です。

2017年11月、保健省からの認証を受け、正式な国の基準になりました。

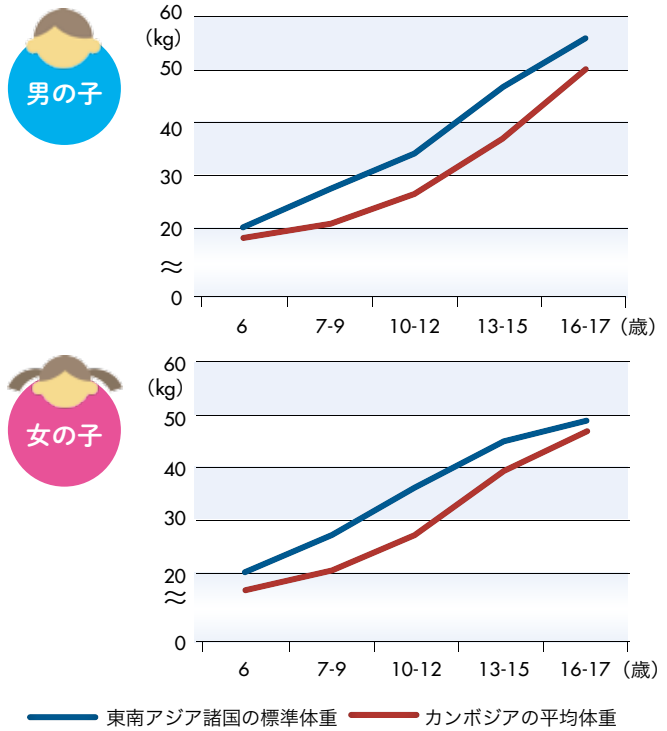
全国への普及へ

今後はこの食生活指針を、保健関連の機関や学校などを通じて普及していきます。
カンボジアには栄養士がいなかったばかりか、学校で栄養について学ぶ機会はいまありません。そこで、普及のための教材開発や、指導する教員や地域の保健に携わる人々へのトレーニングを進めていきます。

日本版食事バランスガイド



学齢期（6歳から17歳）の子どもの平均体重
～カンボジアと東南アジア諸国との比較～



背景・目的 国民の栄養状態が他国に比べて顕著に劣るカンボジアでは、2021年から全国の公立小学校・中学校・高校で正式な教科となる保健科目に、栄養分野が組み入れられます。しかし、カリキュラム構築と教科書の執筆、および教員の知識強化が課題です。体系的な栄養教育の普及を後押しし、全国の学齢期の子どもたちとその家族の適切な食習慣を通じた栄養改善を促進します。

主な活動 ①子どもの食生活指針の普及のための、教材製作、セミナー開催、専門家派遣等
②保健教科書の作成支援と教育行政の人材育成

カンボジア小児外科支援



クラチェ州病院において、ヘビに噛まれ入院している子どもの容体を診察する国立小児病院の医師と看護師（左から2、3人目）。州病院の看護師（左端）は診察のポイントを、日常業務における実技指導を通じて学んでいます

クラチェ州病院の医師・看護師の技能強化が始まりました

カンボジア北東部の要所であるクラチェ州において、州病院職員の小児外科診療能力を高めるとともに、州内にある他の病院等からの患者搬送を強化することで、子どもたちが適切な治療を受けられる医療体制作りを開始しました。クラチェ州は国内でも貧困層の割合が高いうえに、未舗装の道が多く、州を縦断するメコン河に隔てられた地域もあり、住民が医療サービスにアクセスするのが容易ではありません。クラチェ州病院は州内最大の総合病院ながら、受診数や搬送患者の受け入れも少なく、子どもの手術件数は極めて限定的です。

当年度は、州病院の外科・手術部の医師および看護師の技能強化に着手しました。「講師役」は、FIDRが20年間にわたり支援してきた首都プノンペンの国立小児病院外科の医師や看護師です。彼らがクラチェ州に赴き指導を行ったほか、州病院職員12名が国立小児病院において実技研修を受講しました。また、カンボジアでの指導経験を持つ日本人小児外科医を5回派遣して、補完的な助言や指導を行いました。カンボジアおよび日本の医

療者による指導の体制が整ったことで、今後、州病院職員の技能が高まり、クラチェ州でも手術可能な病気の範囲が広がることが期待されます。

さらに、入院患者や家族が安心して過ごせるよう州病院内の環境を見直す中で、患者用のトイレや水場などの劣悪な衛生状態に着目し、設備の改善について病院側と精査を進めました。

背景・目的 5歳未満児の死亡率が他のアジア諸国に比べて依然として高いカンボジアでは、特に地方において的確な外科治療を受けられない子どもが多く存在します。クラチェ州病院を拠点とした小児外科診療体制を整え、クラチェ州および近隣州の子どもたちが迅速かつ適切な診断および外科治療を受けられるようになることを目指します。

主な活動 ①クラチェ州病院における外科・手術部職員に対する技術研修、州病院の機材・設備の改善
②国立小児病院の医師・看護師の能力強化を通じた指導体制の強化

コンポンチュナン州農村開発

新たな地域で、早速、米の収量UPという成果があげられました

前年度までのコンポンチュナン州2郡5地区における農村開発プロジェクトの実績が高く評価され、当局から州内の新たな地区への展開を要請されたことから、当年度より3年間の計画でロレイアッピア郡およびタックポー郡にて活動を開始しました。初年度は2郡のうち4地区25村4,552世帯を対象として、SRI農法の普及をはじめ、家庭菜園や乳幼児の栄養改善の指導を実施しました。

特にSRI農法については、対象世帯の約8%にあたる357世帯が実践し、米の収穫高は3.6トン/haと、従来の農法に比べて約1.3倍高い収穫量を得ました。このプロジェクトでは、まずやる気のある農民をトレーナーとして養成し、トレーナーが中心となって他の住民を指導する方式をとっています。これにより、知識・技術の普及が効率的に行われ、住民どうしの協力にもつながっています。

対象の州・郡・地区の農業および保健の行政官らとの関係構築も順調に進み、プロジェクトの自立発展性を確固たるものとするための基盤づくりができました。

カンボジア給食支援

国立小児病院における栄養管理の能力強化に注力しました

カンボジアでは、患者の栄養についての取り組みはほとんどなされていません。その中で、首都プノンペンの国立小児病院は、先駆的な役割をはたしています。前年度末に、FIDRとともに同院における給食管理・栄養管理をリードしてきた栄養科の主任医師が退職し、同科の職員体制が改まったことから、当年度は、給食管理・栄養管理の基礎を再度指導し、業務の継続と発展を支えました。また、各診療科で医師や看護師が患者の栄養管理に適切に携わることを目指して、栄養管理表を用いた各患者のケアプランの作成や、栄養指導の実践、患者の保護者に対する栄養教育に関する改善などに注力しました。

国立小児病院の給食管理・栄養管理の取り組みはカンボジアのモデルとなっており、他の病院からの関心を集めています。当年度はカンボジア南部のカンボット州にてドイツの財団が運営する病院から要請を受けて、同病院における給食管理の導入に関する技術指導を実施しました。



SRI農法で育てた米を収穫する農民。収穫高が増え、笑顔がこぼれます

*当プロジェクトは平成30年1月から外務省の日本NGO連携無償資金協力を受け実施しております。

背景・目的 カンボジアでは貧困層の約9割が農村部に暮らしており、生計基盤である農業の生産性の低さと、保健・栄養に関する基礎的な知識の不足が大きな課題です。このため、子どもの慢性的な栄養不良による成長阻害や学業への影響が生じています。

主な活動 ①稲作・家庭菜園・養鶏の研修およびトレーナー養成研修
②子どもの身体測定、公衆衛生・補完食に関する研修等
③地域リーダーの育成、農業および保健衛生・栄養に関する情報共有集会の定期開催



病棟で行われている、患者の保護者への栄養教育。図を多用するなどわかりやすく伝える工夫をしています

背景・目的 カンボジアでは子どもの栄養不良が重要な問題となっていますが、栄養摂取に関する正式な基準はなく、医療従事者の栄養についての理解も極めて低い状況にあります。子どもに給食を提供する病院や施設で働く職員が、子どもの栄養状態を正確に把握し、適切な食事の提供やケアができるようになることを目指します。

主な活動 ①国立小児病院での栄養管理の導入（栄養科職員および病棟職員への研修、給食棟器材配備、栄養教育・栄養管理のモニタリング）
②カンボット州にある私立病院での給食導入のための指導

ナムザン郡地域活性化支援



ホイアン市街で開かれたイベントで舞踊を披露するカトウ族

域内の特産品開発が大きく進みました

ナムザン郡内12社*で様々な形で地場産業を育成し、郡全体が持続的に発展する仕組みづくりを目指すプロジェクトは2年目を迎え、地域振興を支える地場産品の開発や外部へのアピールが大きく進展しました。また、タリン族やヴェー族など、カトウ族以外の少数民族も触発され、積極的な参加が見られるようになってきました。

それぞれの村の農産物や工芸品を商品として販売することに住民自身が意欲的に取り組み、はちみつ、伝統織物製品、胡椒など約100品目に上る産品が生まれました。また、伝統文化に息づく芸術性や精神性に惹かれる外国人も増えてきている中、観光名所である世界遺産ホイアン市街にて、カトウ族をはじめとした近隣の少数民族の舞踊を紹介するイベント開催を支援しました。かつては外部との交流が希少であったカトウ族の人々も、民族の自尊心を保ちながら応接能力に磨きをかけています。開発した地場産品を販売する機会にもなり、少数民族の伝統文化を国内外からの観光客に深く印象づけました。

11月には日本における地域振興の取り組みから学ぶために、ナムザン郡の行政担当職員や住民代表など11

名が来日しました。宮城県、千葉県で大学や役所、道の駅などを巡り、産品の開発や販売、来客誘致などに関する理論と事例のほか、さまざまな立場の人々が連携することの重要性を学び、今後の創意工夫の糧とすることができました。

社*:日本の「市」「町」に相当する行政単位

※本プロジェクトは、独立行政法人国際協力機構（JICA）の委託事業として、「ナムザン郡少数民族地域における住民主体による地域活性化のための人材育成」という事業名で実施しています。

背景・目的 FIDRが2001年からナムザン郡タビン社を中心にカトウ族とともに進めてきた地域開発の取り組みは着実に実を結び、2012年から住民が主体的に取り組む観光開発による地域振興を図るまでになりました。これを基盤に同郡全域および周辺山岳地域での産業育成へと展開するため、人材育成や官民支援体制、マーケティング体制および地域資源開発手法を構築し、地域振興の持続的なインパクトの創出を目指します。

主な活動 ①観光開発研修、来日研修を通じた地域振興促進のためのリーダーの育成
②地域資源を活用した開発事例の実現
③情報発信とマーケティング体制の構築

コントウム省子どもの栄養改善

「地域住民の意識や習慣の変化」という効果が認められました

2012年から段階的に対象地域を拡大して、2歳未満児の離乳食普及や家庭の衛生改善などを促進してきました。6年目を迎え、住民の生活習慣の変化や家庭の衛生環境の向上という着実な効果が現れています。これらの効果が持続するよう、当年度は村落保健員など関係者の人材育成およびプロジェクト運営を担う現地組織の機能向上に力をおきました。

活動の開始が最も遅い地域では、村落の保健ネットワークメンバーや地域の保健所等のプロジェクトに対する意欲は高いものの、期待する働きが十分に発揮されるにはさらに半年ほどの時間を要するとの見解が11月末に開催したワークショップにおいて一致しました。このことから、関係者の能力向上を確実にするため、プロジェクトを2018年9月まで延長してほしいとの要請を保健当局から受けました。

1月より、これまでの成果を検証するための調査を開始しました。郡や省の保健行政当局からは、国際機関等



離乳食講習を受講した住民の実践が広がっています

による他の取り組みと比較し、地域リーダーらを巻き込み、良好な関係を維持しながら着実に活動を展開することで、地域住民の意識や習慣に顕著な変化が発現しているとの評価を得ることができました。

背景・目的 ベトナム中部にあるコントウム省は、全国で子どもの栄養不良率が最も高い地域の一つであり、子どもたちの栄養状態を改善する対策が急務です。対象地域に住む2歳未満児の栄養状態の改善を図るとともに、地域の保健サービスの向上を目指します。

主な活動 ①妊産婦および乳児をもつ母親を対象とした栄養・料理研修
②2歳未満児の健康改善のための栄養・離乳食調理研修
③家庭における衛生の向上（トイレ設置、衛生研修、保健イベント開催）
④現地組織・村落保健員の研修、会合の実施

中部山岳地域における食糧生産支援

FIDRの稲作技術普及の方法がさらに広がってきました

11月にプロジェクト地周辺を大型台風が襲い、一部の地域で水田が流されるといった被害がありましたが、SRI農法を普及する取り組みは総じて予定通りに進みました。現地は二期作が行われているため、4～6月の春作と10～2月の秋作で、それぞれに研修を実施しています。年度末には、対象地域の水田面積のうち36%でSRI農法を実践していることが確かめられました。特に大きな変化が見られたのが、ナムチャーミー郡とナムドン郡で、プロジェクトを開始した2016年には皆無に近かったSRI農法実践農家が、それぞれ460世帯、500世帯にまで増えました。

当プロジェクトでは、現地の農家が主体となりSRI農法を実践的に指導し、農政が農家をサポートしてモニタリングが行われており、これらをモデル化してさらなる普及を進めています。農政の技師が農家に講義方式で行う通常の指導法と比べ、農家どうしで指導し合う方法が



SRI農法の研修の様子。既に経験を積んだ農民が「指導役」となっています

より効果的であるとの行政の評価を得ています。他の援助機関による農業事業においても、当プロジェクトの方法が採用され始めてきました。

背景・目的 ベトナム中部の山岳地域はもともと米の生産性が低いうえに、近年は大型台風による風水害に見舞われ、その被害規模が拡大傾向にあります。FIDRはクアンナム省で普及させてきたSRI農法を、国内中部の他の山岳・孤立地域に住む小規模農家にも普及させ、気候変動にも対応しうる農法を通じて慢性化した食糧不足を軽減させることを目指します。

主な活動 ①SRI農法による米栽培の技術研修の実施、SRI農法実践者による共有ワークショップの開催
②SRI農法普及のための教材作成
③モニタリングシステムの構築、定期会合、データ収集

復興が進められている地域で、生活を改善する様々な活動が大きく広がりました



ため池をつくった家族。池の周りには農地が広がります

ネパール大地震から2年以上が経過しましたが、人々はまだ生活の再建に取り組んでいます。当年度はこれを効果的に後押しできるよう活動を進めました。

震災前から展開していたため池づくりがさらに広がりを見せ、新たに178か所で造られました。プロジェクト総期間を通した累計は284か所となり、確保した農業用

水で野菜や果物を栽培し、収入向上につながった住民も増えました。煙を屋外に排出する改良かまどは170戸に設置され、累計は400戸となり、多くの女性たちの家事環境が改善しました。また、若い世代51人が受講した溶接技術の研修によって、村レベルに技術を習得した人材が生まれ、人々の家屋再建を加速させることにつながりました。

このほか、6月までに校舎を再建した郡内の小中学校、高校の計5校に勤務する非正規教員に子どもたちが主体となる学習環境づくりの研修を実施しました。子どもたちは安全な環境の中で、よりわかりやすい授業を受けられるようになりました。

プロジェクト最終年度にあたり、ネパール政府による事業評価も行われ、6年近く展開してきた活動は地域の人々のニーズに合致し、しっかりと根付いていると評されました。

背景・目的 ダーディン郡は、成人識字率が低く、5歳未満児の栄養不良、妊産婦死亡率が高い地域であり、貧困がその背景にあります。FIDRの対象地は同郡の中でも社会階層の最底辺におかれる「ダリット」に属する世帯の割合が高く、外部からの支援も少ない状況にあります。同郡の人々の生活改善と生活水準の向上を図ります。

主な活動 ①コミュニティによる地域改善（ため池の築造、トイレ建設、教員研修、溶接研修）
②生活改善支援（改良かまどの設置）
③終了時評価



教員研修後、手作りの教材やゲームなどを取り入れた授業が行われるようになりました

ネパール学校環境改善

ネパールの山岳地域では、教育インフラの改善が重要な課題となっています。とりわけ、2015年のネパール大地震で甚大な被害を受けた学校校舎の多くは未だ再建されず、仮設校舎も劣化が進むなど、子どもたちは劣悪な環境の中で教育を受けています。FIDRは、学校環境の改善に取り組むこととし、広範な調査や現地政府との協議を進めました。そして、首都カトマンズから東に7時間ほど行ったところにあるラメチャップ郡の2校で校舎・トイレの建設を、ダーディン郡で3校のトイレ建設を進めることを決定しました。2018年下半期の着工を目指します。



大地震で倒壊した校舎。竹やビニールシートで一時的な補修を施しただけの教室で授業が行われています

アフガニスタンにおける教育支援

共催団体:特定非営利活動法人 燈台(アフガン難民救援協力会)



中学生の授業風景

目的 対象地域の子どもたちに質の高い基礎教育及び中等教育を提供するとともに、高等教育が受けられる機会の拡大を図ります

タリバン勢力の伸張により治安の悪化が深刻化するアフガニスタンですが、当事業が支援するヌール学校があるジャグリー郡は比較的安定が保たれています。当校は小学部から高等部までの12学年の生徒および就学前学級（幼稚部）の子どもを受け入れており、当年度の在籍者は1,035名でした。

首都カブールに比べ大学へ進学する若者が少ない土地ながら、2017年6月の大学入学試験では当校から卒業生77名の内75名が大学や短大への合格を果たし、州内で優秀な実績をあげました。25名の教職員は熱心に教育に取り組み、教師委員会を設立し、教授法の研修実施や、校内の安全対策、生徒たちによる教師評価など意欲的な試みがなされています

ベトナム国際医療技術協力

共催団体:公益財団法人国際医療技術財団



ベトナム国際セミナーでは鍼灸医によるデモンストレーションも行われ注目を集めました

目的 ベトナムの保健省ならびに医療従事者を対象とするセミナーの開催、本邦研修、専門家の派遣の実施を通じて、同国の医療技術および医療サービス向上に寄与することをめざします。

①ベトナム国際医療協力

鍼灸、柔道整復、歯科技工の各分野において、専門家によるベトナム視察や調査がなされ、今後の支援の方向が検討されました。

②ベトナム国際セミナー

日本政府外務省、厚生労働省、経済産業省の後援を受け、1月に、ハノイ市内にて「鍼灸医学ベトナム国際セミナー」を開催しました。両国の鍼灸師、伝統医学医師、省庁職員、教育関係者ら計150名は日本鍼灸師会長の基調講演およびシンポジウム「ベトナム鍼灸の課題と展望」と実技のデモンストレーションを通じて日本の鍼灸術の理解を深めました。総括合同会議では今後日本側とベトナム側が協力して、日本鍼灸医療に関する技術協力を推進していくという共同宣言が全会一致で採択されました。

ネパール大地震緊急・復興支援

5つの学校を再建しました



ネワールパニ小学校

2015年4月25日に発生したネパール大地震の復興支援として、ダーディン郡4地区内で、小学校3校、中学校1校、高校各1校の計5校の学校再建を進めました。

震災後の混乱の中での資材確保、険しい山道の奥にある現場への資材運搬には多くの困難が伴いました。また当地では珍しい鉄筋コンクリート構造を採用したため、経験のない作業員へは基礎から技術指導を行う必要がありました。

数々の課題を乗り越え、ついに2017年4月にネワールパニ小学校とアンナプルナ小学校の2校が、6月にはガウリシャンカ小学校、スンニャカンニャ中学校、バグバッチェラ高校の3校が完成しました。

これらの学校は、震災後ネパール政府が定めた耐震基準を満たした学校「第1号」として認可され、教育省や復興庁から高く評価されました。地域の人々にも「政府の手が届かず、なかなか復興が進まない時に、海外から子どもたちの将来を考えてこのような支援をしてくださるのは本当に素晴らしい」と大変喜ばれました。

なお、大地震後2年間にわたりFIDRが実施した緊急復興支援に対して、ネパール政府から表彰を受けました。ネパール復興庁と合意書を締結して活動する180団体の中から「迅速かつ効果的に支援を成し遂げた」18団体が表彰されたもので、12月に感謝状が授与されました。

主な活動

5校の学校建設

ネワールパニ小学校	3棟、6教室
アンナプルナ小学校	2棟、4教室
ガウリシャンカ小学校	3棟、6教室
スンニャカンニャ中学校	3棟、6教室
バグバッチェラ高等学校	3棟、6教室



【アンナプルナ小学校】安全で明るい学習環境が実現しました



【ガウリシャンカ小学校】山岳地域のため、尾根の狭い敷地を活用して校舎を建設しました



【スンニャカンニャ中学校】将来の地震に耐える鉄筋コンクリート構造の頑丈な校舎



【バグバッチェラ高等学校】完成式典では、生徒や教員のほか大勢の地域の人々が完成を祝いました



マハドラ首相担当官（左）より感謝状を受け取るFIDRネパール事務所のガン職員

東日本大震災復興支援

山田町中心部の集会所建設に向けた準備を行いました



集会場が建設される、山田町飯岡地区住民の代表と協議を進めました

岩手県山田町では、中心地域の嵩上げ造成工事がほぼ完了し、震災で失われた集会所の再建に向けたプラン作りが動き出しました。役場と住民代表との間の協議が始まり、FIDRも参加しました。これにより建設場所、施設の機能と基本設計が固まりました。着工および完成は2018年度中を見込んでいます。

主な活動 地域住民の活動拠点づくり
(山田町の集会所建設)

ベトナム中部台風緊急支援

台風・長雨の被災者への支援を実施しました



ナムチャーミー郡での掛布団、石鹸の配布



ナムチャーミー郡の土砂崩れの現場



住民は、ビニールシートで雨風をしのぎながら避難生活を送っていました

11月上旬、台風23号がベトナム中部を直撃し、106名の死者、11万戸以上の住宅被害が発生しました。台風通過後も長雨に見舞われ、被害は拡大し、長期化しました。

FIDRのプロジェクト地があるクアンナム省ナムチャーミー郡の山中では、土砂崩れのために1村が移転を余儀なくされました。

台風と多雨による洪水のために衛生状況が悪化する懸念が高まり、12月中旬、FIDRは行政からの要請を受けて、ダナン市およびナムチャーミー郡において、避難生活で必要となる石鹸等の衛生物資の配布と衛生啓発活動を行いました。

土砂崩れのために集団移転を行った村の住民200世帯は行政から配られたビニールシートで天幕を張り避難生活を送っていましたが、雨天続きで例年に比べて冷え込みが一層厳しく、10度を下回る日もありました。FIDRは必需物資として掛布団を配布しました。現地の方々からは「これで久しぶりに暖かくして眠ることができる」と喜びの声をいただきました。

主な活動

- ①ダナン市ホアバン区およびクアンナム省内3社9,446世帯への衛生物資配布
- ②クアンナム省ナムチャーミー郡の移転村約200世帯への掛布団の配布

みなさまとともに

FIDRは、約300の法人賛助会員や2,400人以上の個人賛助会員のみなさまをはじめ、ご寄付やボランティアでご協力くださるみなさまとともに、開発途上国の子どもたちや自然災害に見舞われた方々のための活動を実施しています。2017年度のみなさまとのパートナーシップについて、その一部をご紹介します。

募金活動

ヤマザキ製パン従業員組合



ヤマザキ製パン従業員組合では、全国の支部において、年間を通じたチャリティー活動や募金活動などに取り組まれ、集まった募金を東日本大震災復興支援ならびにベトナムの食糧生産支援プロジェクトのためにご寄付くださいました。

山崎製パン株式会社、株式会社不二家、株式会社ヴィ・ド・フランス



山崎製パン（株）及び同社グループは、デイリーヤマザキ、ヤマザキショップ、不二家洋菓子店、ヴィ・ド・フランス等、全国約4,500店舗にて実施するヤマザキ「ラブ・ローフ」募金を通し、ネパールの地域開発プロジェクトをご支援くださいました。

ゴダイゴ



ロックバンド「ゴダイゴ」は、1980年にカトマンズでネパール初のロックコンサートを開催した経緯から、同国に深い想いをお持ちで、ネパール大地震の発生した2015年以降各地で開催したコンサートにおいて募金を呼びかけ、ネパール大地震復興支援のためにご寄付くださいました。

一龍齋 貞花 氏(講師)



貞花氏は、定期的に行われている講演会において、FIDRの国際協力や緊急援助の活動についてご紹介くださいました。また、会場内で実施したチャリティーオークションの収益や来場者から寄せられた募金を、FIDRへご寄贈くださいました。

日本フルハーフ株式会社



日本フルハーフ（株）は、毎年5月に本社（厚木工場）に咲き誇る約1,000本のバラを一般に公開する「ばら観賞会」において、FIDRの活動を支援するために募金を呼びかけ、ご寄付くださいました。

東京バロック合唱団



東京バロック合唱団は、11月に開かれた定期演奏会において、来場者に募金を呼びかけてくださったほか、プログラムの紙面でFIDRの活動をご紹介くださいました。

周年記念事業

京都 モーニングロータリークラブ



京都モーニングロータリークラブは、設立20周年にあたり、カンボジアの「学齢期の子どもたちのための食生活指針」*の普及活動をご支援くださいました。同クラブは設立10周年にあたる2007年、また、2016年にもFIDRの病院給食の活動をご支援くださり、一貫してカンボジアの子どもたちの栄養改善のためにご協力くださっています。今回のご寄付により、同指針を関係省庁や保健・教育関係の実務者らに発表するセミナーが実現したほか、子ども向けの普及教材が製作され、全国の小中高校への配布が始まりました。同クラブの皆様は2017年11月にカンボジアを訪れ、このセミナーに出席されたほか、完成した教材を小学校の子どもたちに贈呈されました。

* 詳細はP6～7をご覧ください

チャリティーイベントの開催

第16回「愛の泉」 チャリティーコンサート



「国際開発救援財団ならびにワールド・ビジョン・ジャパンを支援する会」は、9月21日、「第16回『愛の泉』チャリティーコンサート」を開催し、FIDRならびに（特活）ワールド・ビジョン・ジャパンの事業活動のために寄せられた、約2,000人の来場者からの募金などをご寄付くださいました。FIDRはカンボジアのクラチェ州病院の施設改善に活用させていただきます。

公益財団法人東京交響楽団



（公財）東京交響楽団は、被災者を応援するために定期的に開催しているチャリティー演奏会「Concert for Smiles」において、入場料に替えて集められた募金を東日本大震災復興支援のためにご寄付くださいました。

三菱商事株式会社



三菱商事（株）では、福祉や教育、復興支援に携わる団体の活動を支援する目的で、「クリスマス・チャリティーバザー」を開催しています。FIDRも出店し、多くの社員の方々にベトナム「カトゥー族」の手工芸品や岩手県の特産品などをご購入いただきました。また、社員ボランティアの方々に商品説明や販売PRのご協力をいただきました。

商品・サービスの売上からの寄付

株式会社オリエント4C's



（株）オリエント4C'sは、マリッジリング「Timeless Ones LOVERS」シリーズのリングの売上の一部を、FIDRの活動国における教育支援のためにご寄付くださいました。「結婚」という幸せな人生の節目に、また新しい家族ができる機会に、恵まれない国の子どもたちのことに想いをめぐらせて欲しいとの願いが込められています。

株式会社カスタネット



（株）カスタネットは、同社で販売されるトナーカートリッジの売上やWebショッピングサイトの購入額の一部を、カンボジア給食支援プロジェクトのためにご寄付くださいました。

株式会社スーパーヤマザキ



（株）スーパーヤマザキは、お中元やお歳暮ギフト商品の売上の一部を、東日本大震災復興支援活動のためにご寄付くださいました。

ボランティア～できることを、できるときに

学生や社会人 ボランティアのみなさん



当年度も、学生・社会人ボランティアのみなさまに、東京事務所での業務を支えていただきました。ボランティアの内容は多岐にわたり、「グローバルフェスタJAPAN2017」などのイベントの企画・運営、郵送物の発送、封入作業や広報記事の翻訳作業等に取り組んでいただきました。

8月には、ボランティア有志メンバーがFIDRのプロジェクト地を視察するスタディツアーを実施し、その様子を「FIDRカフェ」や「グローバルフェスタJAPAN2017」の場で報告しました。スタディツアーで深めたFIDRのプロジェクトに関する理解や感動を、来場者の方々に伝えるなど、広報活動の一翼を担ってくださいました。

書き損じはがき 収集活動にご協力いただきました

真宗大谷派 廣讃寺
正田醤油株式会社
株式会社東京堂
株式会社新潟ケンペイ
株式会社不二家
ホク商事株式会社
三井不動産ファシリティー株式会社
ミヨシ油脂株式会社
ヤマザキ製パン従業員組合
その他多くの個人の方々
（敬称略・50音順）



見る、聞く、体験する

「FIDR カフェ」の開催

FIDRの活動や国際協力への理解を高めることを目的としたイベント「FIDRカフェ『知ること、話すことからはじめよう、国際協力』」を6回開催しました。FIDRが海外で行うプロジェクトについて海外事務所スタッフや日本人駐在員と話したり、NGOでの日々の業務についてFIDRスタッフから紹介したり、参加者どうしで国際協力に関わる方法について話したりと、形態・内容は多岐にわたりました。



10月の「FIDRカフェ」では来日したベトナム事務所スタッフが登壇。「国際協力をより身近に感じた」などの感想が寄せられました

<各回のテーマ>

- 「ベトナム」(6月)
- 「NGOの会計と経理」(7月)
- 「FIDRスタッフとして働く事」(8月)
- 「グローバルカフェ〜ベトナム・コンナム省での取り組み〜」(10月)
- 「FIDR ボランティアと話そう」(11月)
- 「カンボジア駐在スタッフと話そう」(1月)

「ベトナム少数民族 de プティ・マルシェ」の開催

ベトナムで取り組む「ナムザン郡地域活性化支援プロジェクト」の関係者一行が来日研修を行ったのを機に、プロジェクトで開発中の特産品を紹介し、来日した少数民族と交流するイベントを開催しました(11月、於 東京都千代田区)。

来場者の方々にとって、普段なかなか会うことができないベトナムの少数民族と交流しつつ、特産品等の買い物を楽しむ機会となりました。



伝統織物「カトゥー織」に挑戦する来場者

「グローバルフェスタ JAPAN2017」への出展

毎年秋にお台場で開催される、国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタJAPAN2017」(9月30日～10月1日)に出展しました。FIDRのボランティアメンバーが中心となって、活動地についてのクイズ形式のアトラクションの他、ベトナム「カトゥー族」の伝統手工芸品の紹介・販売を行いました。



ご支援企業・団体内での報告等

ご支援企業・団体内において、活動報告会を実施しました。社員や組合員の方々に対して、活動地の様子を映した動画や、活動国が抱える課題をイメージしてもらうワークなどを取り入れつつ、ご支援の成果を報告しました。

<報告会>

- ヤマザキ製パン従業員組合(8月～10月、12月、計7回)
- ミヨシ油脂株式会社(11月)
- 月島食品工業株式会社(3月)
- 市川ロータリークラブ(3月)



ヤマザキ製パン従業員組合における活動報告会では、グループワークで開発途上国の実情を感じていただきました

読む

広報誌での活動報告

FIDRの活動内容やその成果について、ニュースレターなどを通じて、賛助会員をはじめとする支援者の方々へ発信しました。

- FIDR NEWS96～99号の発行(計4回:4月、7月、10月、1月 各4,500部)
- 年次報告2016の発行(7月 4,500部)
- Relief for Nepal(5月 4,500部)

学ぶ

開発教育

「世界にはどんな問題があるのか」を学び、「なぜ、開発途上国を支援するのか」「私たちにできることは何か」などを考える開発教育を、東京事務所において実施しました。6月に、アレセイア湘南高等学校の生徒が参加し、開発途上国の様々な問題や、今後「国際協力」のために自分たちができることを考えました。

会計報告

貸借対照表(要旨)

平成30年3月31日現在 (単位:千円)

I. 資産の部		
1 流動資産		40,785
	現金預金	39,730
	未収金	357
	仮払金	250
	前払金	448
2 固定資産		502,836
	基本財産	303,000
	特定資産	187,223
	その他固定資産	12,613
資産合計		543,621

II. 負債の部		
1 流動負債		6,660
	未払金	1,669
	前受金	280
	預り金	1,271
	賞与引当金	3,440
2 固定負債		43,743
	退職給付引当金	43,743
負債合計		50,403

III. 正味財産の部		
1 指定正味財産		446,480
2 一般正味財産		46,738
正味財産合計		493,218
負債及び正味財産合計		543,621

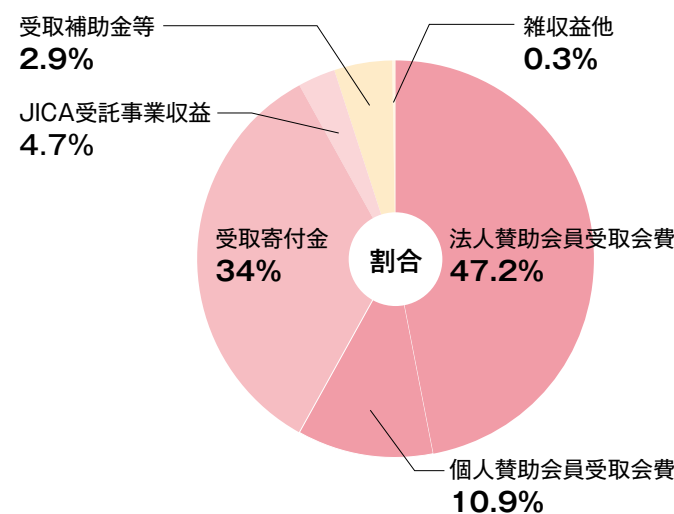
正味財産増減計算書(要旨)

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで (単位:千円)

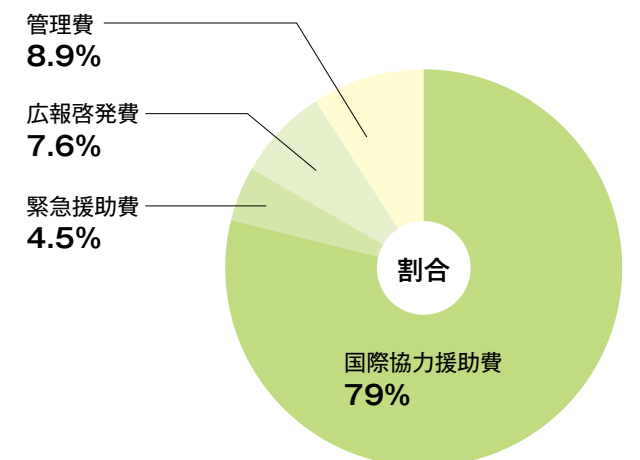
I. 一般正味財産増減の部		
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
① 受取会費		142,112
② JICA受託事業収益		11,481
③ 受取補助金等		7,186
④ 受取寄付金		83,141
⑤ 雑収益他		651
経常収益計		244,571
(2) 経常費用		
① 事業費		228,653
国際協力援助費	198,438	
緊急援助費	11,179	
広報啓発費	19,036	
② 管理費		22,310
経常費用計		250,963
当期経常増減額		△ 6,392
2. 経常外増減の部		
当期経常外増減額		832
当期一般正味財産増減額		△ 5,560
一般正味財産期首残高		52,298
一般正味財産期末残高		46,738

II. 指定正味財産増減の部		
① 受取補助金等		28,839
② 受取寄付金		39,484
③ 一般正味財産への振替額		△ 60,448
当期指定正味財産増減額		7,875
指定正味財産期首残高		438,605
指定正味財産期末残高		446,480
III. 正味財産期末残高		
		493,218

経常収益計 2億4,457万円



経常費用計 2億5,096万円



心をあわせ、未来をひらく

FIDRは、開発途上国の子どもたちの支援と緊急援助を行う、国際協力NGOです。

FIDRとは 公益財団法人国際開発救援財団(英語名Foundation for International Development/Relief^{ファイダー})は、1990年に日本で誕生した国際協力NGOです。

FIDRの2つのミッション

FIDRは開発途上国の子どもたちが健やかに育つことができる社会をつくります。

FIDRは日本国内のさまざまな企業、団体、そして多くの個人の皆様と一緒に、国際協力を推進します。

ミッションを実行するための3つの事業

国際協力援助事業

開発途上国の人々が貧困から脱して、地域が自立的に発展していくことができるように、さまざまな分野で現地に根差した活動を行っています。

緊急援助事業

日本を含むアジアの国々で自然災害に見舞われた人々への支援を行っています。

広報啓発事業

多くの方々の協力の輪を広げるための情報発信やコミュニケーションを行っています。

FIDRは、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に積極的に貢献します。現在実施している事業は、主に以下の10項目の目標に結びついています。



SDGsは、世界の持続的な繁栄を目指し、あらゆる形態の貧困を終わらせるとともに不平等や気候変動の問題に対処するべく、各国の政府、市民、企業が協力して取り組む指針として掲げられた17の目標です。2015年に国連サミットで採択され、2030年までに達成を目指すことがうたわれています。

●団体概要

団体名：公益財団法人 国際開発救援財団

英語表記：Foundation for International Development/Relief (FIDR)

代表者：飯島 延浩

設立日：1990年4月26日

行政庁：内閣府

基本財産：3億300万円

事業目的：開発途上国において子どもの福祉を中心とした住民の生活環境の向上及び地域開発の推進に資するための援助事業を実施し、開発途上国の自立的発展及び福祉の増進に寄与する
海外並びに日本国内における自然災害の被災者への緊急援助を実施し、社会復帰を促進する

賛助会員：法人賛助会員：302 法人

個人賛助会員：2,406 名

事務所設置国：日本、カンボジア、ベトナム、ネパール

※ 2018年7月現在

●役員・評議員一覧

理事長	飯島 延浩	山崎製パン株式会社代表取締役社長
副理事長	三木 晴雄	玉の肌石鹸株式会社代表取締役会長
副理事長	榊原 寛	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン理事長
常務理事	江川 信彦	株式会社サンデリカ監査役
理事	飯島 茂彰	ヤマザキビスケット株式会社代表取締役社長
理事	岡田 逸朗	公益財団法人国際開発救援財団事務局長
理事	岡松 孝男	昭和大学名誉教授
理事	小西 恵一郎	公益財団法人国際医療技術財団代表理事・理事長
理事	戸田 信之	月島食品工業株式会社代表取締役社長
理事	長谷川 冴子	東京少年少女合唱隊桂冠指揮者
理事	日暮 道生	栄香料株式会社取締役会長
理事	深沢 亮子	ピアニスト
理事	三木 逸郎	ミヨシ油脂株式会社代表取締役専務執行役員
理事	湊 晶子	広島女学院院長・学長
理事	吉田 輝久	飯島興産株式会社代表取締役副社長
監事	秋山 豊正	税理士
監事	飯島佐知彦	株式会社東ハト代表取締役社長

評議員	安西 愈	弁護士
評議員	飯島 幹雄	山崎製パン株式会社取締役副社長
評議員	神長 善次	株式会社サンデリカ監査役
評議員	齋藤 昌男	弁護士
評議員	妹尾 正毅	一般社団法人日本倶楽部理事
評議員	中川真佐志	オリエンタル酵母工業株式会社代表取締役社長
評議員	増島 俊之	元総務庁事務次官
評議員	峯野 龍弘	特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン名誉会長
評議員	村上 宣道	一般財団法人太平洋放送協会名誉会長

※ 2018年7月現在

2018年7月発行

公益財団法人 国際開発救援財団 (FIDR) ファイダー

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 3F

TEL : 03-5282-5211

FAX : 03-3294-2525

E-mail : fidr@fidr.or.jp

URL : <http://www.fidr.or.jp>



心をあわせ、未来をひらく